

主体性を磨く

青少年赤十字活動

青少年赤十字(JRC)の活動を知っていますか。赤十字の助け合いの精神に基づき、児童・生徒が困っている人を助けようと活動するもので、市では、令和元年度から全ての小中学校と1つの保育園が加盟して取り組みを進めています。各学校の活動に注目してください。
 ■問い合わせ先 教育指導課(☎・内線1431)



【柏台小】大型絵本の読み聞かせなどを行った富士見荘訪問



【安代小】赤十字の7つの原則の意味などを発表したJRC登録式



【寺田小】地域ボランティアとの花壇草取りの様子



【松尾中】赤い羽根共同募金活動

◎青少年赤十字とは

「ALL Are Brothers (人類みな兄弟)」。これは、赤十字の生みの親アンリ・デュ楠の言葉です。青少年赤十字は、赤十字の人道の精神に基づき、児童・生徒が主体的に行動することで世界平和と人類の福祉に貢献することを目指します。地域社会や世界のために奉仕し、世界のひとびとの友好親善の精神を育むことを目的として、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。令和元年度からは市内全ての小中学校が青少年赤十字に加盟し、ボランティア活動などに積極的に取り組んでいます。

◎県内の加盟状況

令和3年9月時点で、小学校304校中96校(31・6割)、中学校156校中45校(29・8割)が加盟しています。小中高、特別支援学校まで含めると29・1割で、加盟校は近年増加傾向にあるとはいえ、県内の加盟率は決して高くありません。しかし他県に目を向けると、加盟率が高い順に、香川県95・1割、群馬県94・7割、岐阜県91・7割と活動への関心が高いことがわかります。また、国内には1万4千校を超える加盟校と340万人以上の仲間がいます。

◎学校教育との関わり

青少年赤十字は「気づき」、「考え」、「行動する」という3つの態度目標を掲げています。この目標は、誰かに指示されてから行動するのではなく、自分で課題に気づき、自分の頭でどうすべきかを考え、失敗を恐れずに実行に移すことの大切さを表しています。市の目指す教育理念も同じで、青少年赤十字活動が子どもたちの主体性の高まりにつながっています。

◎つなぐ思い、将来の糧に

東日本大震災で岩手県は全国、そして世界中から多大な支援を受けました。あれから10年。そんな私たちがだからこそ、今後何かあった時には支援の手を差し伸べることができるのではないのでしょうか。

市に育つ子どもたちは、さまざまな青少年赤十字の活動を通して、ボランティア精神と行動力を身に付けています。困っている誰かのために自分の力を惜しみなくさげることのできる人に成長していくなら、将来予期せぬ災害に出合ったとしても、あるいは人生の壁に突き当たったとしても、仲間と手を携えながら困難を乗り越え、自らの人生を豊かなものにしていくはずですよ。

被災地交流で学んだ思いやりの心



松野小6年 山本 徠愛 さん

青少年赤十字活動の一環で、毎年友好姉妹都市の宮古市との交流を続けています。被災された人たちの状況を理解することで、思いやる心の大切さを学びました。交流会は、参加した人々たちを笑顔にしてあげたいという気持ちで取り組んでいます。



毎年行う沿岸被災地域の人たちと交流会



被災地支援のため、義援金を集める生徒会執行部

小さな力を合わせて大きな力に

静岡県熱海市で起きた土石流災害を見て、甚大な被害を受けた人々に対して何かしなくてはと思い、生徒会で話し合っって義援金を集める活動に取り組みました。一人一人の力は小さくても、合わせることで大きな力になることを学ぶことができました。



西根中3年 佐藤 茶芽 さん